

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391600158		
法人名	杉友商事株式会社		
事業所名	グループホームあいか 4階ユニット		
所在地	愛知県名古屋市天白区御前場1番地		
自己評価作成日	平成28年1月25日	評価結果市町村受理日	平成28年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/">http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成28年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所のある地域は、昭和40年代後半に開発が進み自治活動の活発な地域です。そのような立地にある事業所で大切にしている事は4つあります。一つは、ご利用者お一人おひとりが個性を發揮できる事。二つ目は、ご家族や地域の方と支えあう事。三つ目がご利用者の病気の特性を理解し、認知症ケアの基本を踏まえたケアを行うという事。最後の4つ目は、地域で普通の暮らしを送れるよう支援する事。今年度の活動では、春は梅見、花見や近隣の夏祭り、冬はみかん狩りや鍋料理を囲んでの食事やご利用者とご一緒におせち作りなど、普通の家庭で行われている事を楽しみながら行う事により、季節感のある生活から出来る事を楽しんで行う事を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

パーソン・センター・ド・ケアという支援方法を基礎におき、職員が管理者のもとで支援について学び、それぞれが利用者本位で一人ひとりと向き合いながら自分の技能を高めつつ、利用者の「いやだ」と感じる気持ちも大切に、「うれしいね、楽しいね」の気持ちがいっぱいあふれるような、どんなに重度化してもその人らしく、普通の暮らしを送ることができるような日々を支えている。日帰り旅行やレクリエーションでの利用者の笑顔があふれる写真が居間に貼られ、支援が生活を支えているのがうかがわれる。地域交流を広げることに積極的で、事業所の夏祭りには近隣の人たちが多く訪れ、盛況であった。幼稚園との交流もあり、運動会の予行演習に招待されたり、自治会のふれあい喫茶に出向いたことからボランティアの輪が広がったりもしている。地域から必要とされる事業所になれるよう更なる交流に努め、情報を発信している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で運営理念を作り、理念に基づいた目標を毎月設定し日々の業務に取り組んでいる。又、職員一人ひとりの目標を設定する際にも、理念の実践の具体的な行動目標が設定されている。	利用者本位の個別支援を基礎として、全職員がそれぞれの目標を定め理念に沿った支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内新聞などを読み町内の行事参加から行っている。又、どなたに合っても挨拶をするなど基本的な事柄を大切にしながら交流を深めている。	地域との繋がりを重視し、事業所が地域の介護の要となれるよう交流を広げている。まずは挨拶から始め、事業所主催の夏祭りを開催したり、地域清掃に職員と利用者が参加し、幼稚園児との交流や中学校の職場体験の受け入れもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中での生活の中、交流の折に介護相談される事がある。他には運営推進会議等を通じ発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でご利用者やご家族のアンケート内容の改善策等のご意見をいただいたり、取り組みの結果の報告をさせていただいている。	運営推進会議はいきいき支援センター職員や利用者家族、近隣の方などをメンバーに、年6回開催され、事業所の取り組みを報告し、地域の情報を得る機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と事業所の抱える問題等必要に応じて相談させていただいている。	管理者は、地域で認知症に関する勉強会に講師として出席したり、区の担当者やいきいき支援センターと日頃から連絡連携をとりあっている。また、職員は市の主催する研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等のテーマの研修をしている。玄関はオートロックとなっているが、解錠の仕方が分からない方は出来るだけその場で対応し外出支援している。現在は帰宅願望やその他単独での外出希望はない。	身体拘束に関して、外部研修結果を受け全職員が内容を共有している。拘束のない支援について、例えばエスケープなどを念頭において場面場面を想定した話し合いを設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については、認知症の方との関わり方及び倫理の研修等研修を実地しており、その中で学習している。又、OJTの中でも常に学習している。見過ごされることがない様、全ての職員で言葉での虐待を含め取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度について管理者は研修を受けている。又、職員は研修の機会に学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項を持って説明、しその他、疑問や不明な点をお尋ねしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所独自のアンケート調査をおこなっている。又、ご本人のご要望はその都度お聞きしている言いくいと感している事もあるとの想定もされ、こちらからお尋ねしている。運営に反映させるために月2回話し合っている。	事業所から家族に向けて年に一度アンケートをとっている。また、面会時や計画作成時に家族との話しあいの機会を設け、要望があれば支援に組み込んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員アンケートを毎年おこなっており、改善している。又、業務改善の提案ができるよう用紙と回収箱を設置している。	年に一度、待遇や運営に関するアンケートを職員にとっている。日頃から職員は運営支援に関する提案を出し、支援については、できることはすぐ取り組むようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価と上司評価を持って、職員個々の努力を給与等に反映させている。遣り甲斐については常に話し合う。又、遣り甲斐につながる研修をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの実際と力量を管理者は把握しており、必要な研修を法人内、外部の研修等の機会を設けている。又、外部研修は、管理者の勧めで行く事もあるが、募集を掲示し希望者にはできるだけ受講できるよう図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内に事業所が12事業所あり交流を図っている。他法人との交流は外部研修その他で職員各自行っている。その中で啓発された事をサービスの質の向上につなげていくよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にできるだけ情報の収集の行っている。又、安心感が得られるまで寄り添うなど個別な対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にできるだけ情報の収集の行っている。ご相談がしやすいよう面会の都度、管理者はご挨拶に伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時を見極める為に、聞き取りをご本人視点でお聞きしている。他のサービスが適当と思われるときは提案させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と共に家事を行うなどし、その中で教えていただく場面があり、ご利用者と相談しながら共に生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とケアの方法など相談しながら行っており、ご協力が必要な時はご協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所への外出などできるところから行っている。御面会していただきやすい雰囲気作りにも努めている。	事業所を拠点とした馴染みの場所が出来ており、喫茶や買物にでかけている。家族や友人、知人の面会もあり、居室や居間など居心地のよい場所を提供している。年賀状のやりとりも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度の高くなりつつあるユニットであるも、ご利用者同士で問題解決できる時は見守るなど必要に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、ご相談はいつでも受けている。退去者が他施設の場合面会に行くなど行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	パーソン・センター・ド・ケアの研修等を行っている。職員は、パーソン・センター・ド・ケアの視点でカンファレンス等で検討している。そのため、ご利用者一人ひとりの思いに焦点を合わせ、意向や希望の把握に努めている。	利用者一人ひとりを見つめ、それぞれを中心とした最善のケアを支援している。家族にカンファレンスにも参加してもらい、利用者が何を求めているのか、何を望んでいるのかをより深く知り、ニーズの把握に努め具体的なケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの暮らし方や生活歴の把握は初期にも行うが、その後、ご本人から聞き取りやご家族のカンファレンスへの出席を求めなどをしながら出来る限り把握できる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる事、できない事シートを使用するなどその方の有する能力の現状把握に努めると共に、有する能力の発揮のするために必要な支援等を常に検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人のより良い暮らしの課題や援助についてご家族やご本人と常に話し合っている。	月1回実施される利用者と家族とのモニタリングで(参加できないご家族は面接時に聞いている)話し合ったことをカンファレンスで全職員で共有し、家族と職員の思いが一致するような介護計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に日々の気づきやご本人のお言葉を記録し、情報の共有をしている。その事によって介護計画やケアを見直し等実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズのその都度対応している。対応の方法については、柔軟に対応できる方法を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族だけではなく、様々な方の有する力を資源としている。一人ひとりの社会資源の把握に努め常に情報を探している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望のかかりつけ医を持っていただいているよう体制は整っている。現在は希望者がいない。	利用者希望のかかりつけ医にかかる時、基本的には家族が付き添うが希望であれば職員が付き添うことも行っている。月2回内科の訪問診療もある。また、24時間緊急時に対応可能な体制をとってもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へ介護職員は体調の変化等の気づきを伝える等をし、適切な受診が受けられるようにしている。又、協力病院の医師と看護師とは気軽に相談できる関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、必要な情報の提供を含め病院関係者と話し合いをしている。途中経過等についても7問い合わせするまどし早期退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したときの対応について、ご家族と順次話し合いをしている。又、事業所の見取り介護の指針等をご説明している。その他、協力病院の医師と支援できる方法についても話し合いしている。	ターミナルケアについて、日頃から事業所の指針に基づき職員で話し合いをしている。家族には入所時に出来ることと出来ないことの説明をしているが、重度化した場合、その都度家族、医師、職員とで話し合い家族の意思を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員、緊急時対応及び応急手当については社内研修で行うと共に、外部研修にも順次出ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内との協力体制ができるよう自治会と取り組んでいる。又、防災訓練を定期的に実施し利用者の避難方法の訓練を行っている。その他、寝たきりの方の避難のさせ方も実施している。	家族の同意を得て自治会に利用者の名簿を渡し、支援物資が届くようにしている。年2回の避難訓練は時間を変えて実施し、毎年布団を使用した訓練も行っている。食料品の備蓄は5日分用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性や尊厳を大切にしている。言葉かけや対応も大切にしているが、倫理や認知症の方への理解が大切と考え研修している。	パーソンセンター・ド・ケアを指針とし、一人ひとりの人と接し、その人にとってどのような対応が最善なのかを話し合い認知症の人を理解し、職員間で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝のコーヒー等の嗜好品の希望もその都度お聞きしている。言葉で表せない方へはご様子から希望を推察する。又、選択が難しい方へは、二者択一で選べるように支援するなど自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを大切にできるだけご自身で過ごし方を決められるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と相談しながら、身だしなみに気配れるよう、さりげない支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片づけは職員とご利用者と毎行っている。又、食事が楽しみになるよう献立と一緒に考えたり、共に食事をし、談話するなど食事を楽しめるよう援助している。	献立や食材も業者が行っているが、時には利用者と職員がメニューを考え、食材も利用者が買い出しに出かけている。食事の配膳や後片づけも利用者が手伝っている。車椅子の人にも調理の一端を担ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量の記録を持って、必要量の確保を確認している。水分を取れるよう、嗜好に応じた物を提供する等行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別な対応にて、必要な援助をし口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録にてパターンに応じて援助している。	自立の人もいるが、その他は排泄チェック表を職員で共有し、それぞれの利用者に合わせて声がけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分の促しなど個々に合わせた支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望時間など考慮してもw/3回入浴して頂く事が困難な方は希望に応じて清拭などできる事を提案している。又、個別支援のまたとないチャンスなので職員とゆったりと談話を楽しんでいる。	入浴の時間は1対1で話せる大切な時間であるので、出来るだけゆったりと過ごせるよう職員もリラックスして支援出来るよう心掛けている。入浴を嫌がる利用者に対しては無理強いせず、その日に何を出来るか(足浴や清拭など)考えて支援する。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後の時間をゆったりと寄り添って過ごすなど、安心して眠れるよう援助している。又、就寝時間や個々の就寝の習慣を援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更時に薬剤の効用、副作用等の留意すべき観察点について、処方箋や申し送りにより確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	開所6年目となり介護度の高くなっていくユニットで、活動量が低下している方も多々いらつしやるも、個々の生活歴及び、現在のしたい事、楽しみな事好きな事に視点を置き支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日の散歩、買い物をはじめ車での外出や外食、日帰り旅行等日常的に外出できるよう支援している。	日課の毎日の散歩をはじめ、衣服などの買物、幼稚園の運動会にも行っている。車での外出としてショッピング、ペットショップ、花火大会、ミカン狩りにも出かけている。年2回の日帰り旅行には家族も参加し今年には昭和村、南知多ビーチランドに出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で財布を持っていらしゃる方は小遣いにて嗜好品を購入できるよう援助している。又、小遣いを持たない方は、共に買い物へ出かけ嗜好品を立替金で購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話をかけたりできるよう援助している。又、携帯電話を所持している方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招かないよう影等にも配慮している。又、ご本人の居室やリビングの中で幻視、幻覚を誘発するものがないか等常に気配りをしている。	居間全体が見渡せる対面キッチンとなっており、利用者を常に見守りながら作業できる。影に神経を使う利用者もいるので窓からの光に配慮している。壁には利用者が作った作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在は、他者と共に過ごす方を好まれる方が多い。又、常時見守りを必要とされる方もいらっしゃるが、必要に応じて居室へ案内している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物に囲まれて生活できるようご家族にご入居時、及び適時相談や依頼をしている。	自分の家のように過ごしてもらえよう、入居前から使っていた使い慣れた物を家族に持って来てもらい、居心地よく過ごしてもらえよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力と本人の望みをアセスメントし、安全でかつ自分で決め、自分で出来る事の支援をしている。		